

鳥類に及ぼす化学物質の毒性に関する研究 (第2報)
 3種の有機リン系殺虫剤のドバトに対する経口急性
 毒性

Toxicological Studies on the Influences of Chemicals to the Birds (Part 2)
 Oral Acute Toxicity of Three Organophosphate Insecticides in Common
 Pigeon

服部 睦 作

Keisaku Hattori

第1報において、3種の有機リン系殺虫剤すなわち Fenitrothion (MEP) スミチオン Trichlorfon (DEP) ディブテレックス Dichlorvos (DDVP) のニホンウズラに対する毒性について報告したが、ドバト *Columba livia* に対しても同様の試験を実施したので、その結果について報告する。供試したドバトは札幌市内で捕獲されたもので捕獲後2日目に試験に用いた。雌雄を区別せずに用い、供試時の体重は250~380gであった。薬剤投与量はウズラの試験に準じて4段階を設定し、1段階に2羽を供試した。体重100g当り0.5mlを金属製胃ゾンデを用いて投与し、対照には同様に水を投与した。24時間、48時間の生死数を判定した。結果は表に示すとおりである。

感受性に相異があることを指摘したが、本試験においても同様の結果を得た。

文 献

- 1) Tucker, R. K. et al. : Toxicicol. Appl. Pharmacol., 20, 57, (1971)

第1報でのウズラとの試験結果の比較において、Fenitrothion, Dichlorvos ではドバトの方が感受性が高いが、Trichlorfon においてはウズラの約半の感受性を示すに過ぎなかった。また発症状況等においても Dichlorvos では致死および回復は短時間内で、ウズラにおけると同様であったが、Fenitrothion Trichlorfon では投与後48時間まで流涎、流涙、起立不能の状態が継続し、完全回復には60時間以上を要した。

Tucker¹⁾ は鳥類の間でも種によって化学物質に対する

表1 3種有機リン系殺虫剤の対ドバト経口急性毒性

Fenitrothion			Trichlorfon			Dichlorvos			対 照
投与量 mg/kg	24時間	48時間	投与量 mg/kg	24時間	48時間	投与量 mg/kg	24時間	48時間	
15	0/2*	0/2	45	0/2	0/2	6	0/2	0/2	0/2
30	1/2	1/2	90	0/2	0/2	12	0/2	0/2	
60	1/2	1/2	180	1/2	2/2	24	2/2	2/2	
120	2/2	2/2	360	1/2	1/2	48	2/2	2/2	
LD ₅₀ mg/kg	42.24		179.9			16.79			

※ 死亡数/供試数